

# こらぼん

Booklet to accelerate collaboration

VOL.2



# こらぼん

Booklet to accelerate collaboration

地域と地域、産業と産業をつなぎ、モノづくりのための刺激を生み出す実験的冊子

VOL.2

# こらぼん

Booklet to accelerate collaboration

## VOL.2



誰もが一度は見たことや食べたことのある「日の丸弁当」。

何気に日本の国旗もフィーチャーされており、我が国にとっては非常に象徴的な食品と言えます。

しかし、何と言っても「ごはん」と「梅干し」だけという、これ以上ないほどのシンプルさが潔くもある一方でどこか寂しい印象を持たれることもあります。

ですが、樋口清之氏の著書「梅干と日本刀 -日本人の知恵と独創の歴史-」によると、「日の丸弁当は超合理的な食品」として、ごはんと梅干しの組み合わせが、いかに理に適ったものかが解説されています。

「米は酸性食品であり、これだけでは欠点を持っているが、全体のほんの1%の梅干しが胃の中で99%の米を中和し、米のカロリーは食べたほとんどが吸収される役割を果たす。すなわち、日の丸弁当は、食べて直ぐにエネルギーに変わる、労働のための理想食なのだ…」と。

この「こらぼん」も、このシンプルかつ絶妙な組み合わせのように、様々な資源がコラボレーションし、見る人・使う人のエネルギーになることを願い、また、オールジャパンを意識して制作したVol.1の表紙デザインの流れも意識し採用しました。

# こらぼん

Booklet to accelerate collaboration

地域と地域、産業と産業をつなぎ、モノづくりのための刺激を生み出す実験的冊子

VOL.2

「デザイン分科会で何か新しいことをやりたいよねえ…」。

平成21年度秋の開催計画を話している時にポツリとつぶやかれた、そんな一言から「こらぼん」の企画はスタートしました。

初回の原稿募集では、たった5件だけだったものが、その後、様々な方々にご協力をいただく中で17機関37件のエントリーにまで膨らみ、難産ではありましたがVol.1を発刊することができました。

そして今回、このVol.2の編集では、19機関から43件のエントリーをいただくことができました。関係者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

この「こらぼん」を例えるなら、B級グルメのような存在でありたいと考えています。近所にある定食屋さんの野菜炒めやラーメンがとても美味しかったりするように、技巧を凝らし、どこにも隙のない完成されきった料理でなく、ごく自然に毎日の生活の中に溶け込んで、でも、きちんと作られていて根強いファンを獲得している、そんなイメージの、各地域にある正直なものづくりの集積であればと考えています。そしてまた、それらが「こらぼん」という共通の枠組みの中にレイアウトされることで、接触の機会のない異質なもの同士が化学反応を起こし、新たな着想や商品開発などに結びついていけばと考えています。

この「こらぼん」が、いささかなりとも地域のデザイン振興と中小企業の商品開発支援の一線で活躍しているの方々のお役に立てば幸いです。

## contents

はじめに		001	斜め燃焼薪ストーブ「IILA(イーラ)」	長野県工業技術総合センター	059
目次		003	キッチン漆・食洗機対応シリーズ	長野県工業技術総合センター	061
アイヌ工芸品 イタとアットウシ	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	007	駿河漆器	静岡県工業技術研究所	065
青森プレゼンツ	地方独立行政法人 青森県産業技術センター	011	駿河竹千筋細工	静岡県工業技術研究所	067
いわてデザインネットワーク	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	013	aGEL	静岡県工業技術研究所	069
てまる	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	015	きょくぎし(曲樹師、曲樹紙)	静岡県工業技術研究所	071
繭と漆ジュエリー	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	017	MUZEUM(ムゼウム:祈りの家具)	静岡県工業技術研究所	073
理美容鉢	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	019	萬古焼の耐熱陶器	三重県工業研究所	077
笠間焼	茨城県工業技術センター	023	伊賀焼の土鍋	三重県工業研究所	079
桐と暮らす「雄勝の林業」×「春日部の工芸技術」	埼玉県産業技術総合センター	027	ナナプラス	滋賀県工業技術総合センター	083
新しい感覚の秩父銘仙 解し捺染、太織	埼玉県産業技術総合センター	029	滋賀県の織物	滋賀県工業技術総合センター	085
ANDON	福井県工業技術センター	033	竹のものさし	滋賀県東北部工業技術センター	087
パーフェクトロックボルト	山梨県工業技術センター	037	堺注染「にじゆら」	大阪府産業デザインセンター	091
Willie's Custom Brass	山梨県工業技術センター	039	宮島細工	広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター	095
富士勝山スズ竹工芸	山梨県工業技術センター	041	五右衛門風呂	公益財団法人 広島市産業振興センター	097
Maquimasuka(マキマスカ)	山梨県工業技術センター	043	伊予の水引	愛媛県産業技術研究所	101
一升瓶ワイン	山梨県工業技術センター	045	世界を旅するモザイクボード	愛媛県産業技術研究所	103
糸入り和紙	山梨県工業技術センター	047	大川組子	福岡県工業技術センター	107
世界最小ネジ	山梨県工業技術センター	049	d-torso system	大分県産業科学技術センター	111
華真珠	山梨県工業技術センター	051	筒状炎ろうそく製品	大分県産業科学技術センター	113
水晶貴石細工	山梨県工業技術センター	053	マンナンマスターのこんにやく製品	大分県産業科学技術センター	115
「四季の甘酒シリーズ」「さわやか甘酒」	長野県工業技術総合センター	057	エコレンガ	宮崎県工業技術センター	119
			木製螺旋階段と木工技術	宮崎県工業技術センター	121

# HOKKAIDO

北海道

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構[産業技術研究本部 工業試験場製品技術部]

〒060-0819 北海道札幌市北区北19条西11丁目

Tel: 011-747-2321(代) Fax: 011-726-4057

ホームページアドレス <http://www.iri.hro.or.jp/>

e-mail: [hidaka-seiji@hro.or.jp](mailto:hidaka-seiji@hro.or.jp)



2013年3月、平取町のアイヌ工芸品が、北海道では初めてとなる伝統的工芸品の指定を受けました。

「イタ」と呼ばれる木製の盆は、主にクルミやカツラなどの地場産材を材料とし、モレウ(渦巻き状の文様)やアイウシ(とげ状の文様)などのアイヌ独特の文様が彫刻されています。「アットウシ」と呼ばれる反物は、オヒョウやシナの樹皮を素材として作られ、主に着物や帯などに活用されてきました。どちらも江戸時代から交易品として使用されていた歴史があり、北海道を代表する工芸品として古くから高い評価を受けていました。

伝統的工芸品の指定を機に、産地では新商品開発や技術継承、販路拡大などブランド力向上に向けた取り組みを始めています。

## アイヌ工芸品 イタとアットウシ



# AOMORI

青森県

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 弘前地域研究所〔生活技術部〕  
〒036-8363 青森県弘前市袋町80  
Tel: 0172-32-1466 Fax: 0172-35-5093  
ホームページアドレス <http://www.aomori-itc.or.jp/>  
e-mail: [masaru\\_tateyama@aomori-itc.or.jp](mailto:masaru_tateyama@aomori-itc.or.jp)



『自然豊かな青森の恵みを、「おみやげ」という形で全国にお届けしたい』。これが青森プレゼンツのコンセプトです。

職人一人ひとりが丹精こめて作り上げたおみやげには青森のおもてなしの気持ちがあふれています。

津軽塗、こぎん刺し、木工、打ち刃物、籐工芸等々、青森県内の腕の立つ様々な工芸の作り手が集まって、いろいろなアイデアを出し合い、お求めやすい価格の工芸お土産品を作りました。

それらを「青森プレゼンツ」としてブランディングしています。

URL: <http://www.aomori-presents.jp/>

## 青森プレゼンツ





# IWATE

岩手県

地方独立行政法人 岩手県工業技術センター〔企画支援部〕  
〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田3-35-2  
Tel: 019-635-1115 Fax: 019-635-0311  
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~kiri/>  
e-mail: [cd0002@pref.iwate.jp](mailto:cd0002@pref.iwate.jp)



東日本大震災津波で被災された企業に対し、デザイン面から復興のお手伝いをするために、国立大学法人岩手大学、岩手県立産業技術短期大学校、学校法人盛岡情報ビジネス専門学校、岩手県工業技術センターの4機関が協定を締結し、「いわてデザインネットワーク・ボランティア (i-DNet)」を設立しました。

i-DNet では、4機関に加え、広くデザイナーなどの皆さまにもご参加頂き、岩手県沿岸地域の企業に対して、商品やパンフレットなどのデザイン制作を支援しています。

今後、このネットワークを通じて、企業とデザイン業界、デザイン業界内の連携強化、デザイナー・学生の育成・就業など、岩手県の幅広い産業や企業の発展に繋げることを目指します。

## いわてデザイン ネットワーク・ボランティア -デザインで復興を支援する-





photo:TRUNK inc.

「てまる」は、食事を“楽しむ”日本の食文化を大切に、一般食器としての美しさと、介護食器に必要とされる使いやすさを重視した器ブランドです。手仕事を生かして、障害のある方のためのオーダーメイドの器にも対応しています。

2008年に磁器工房の陶來と(地独)岩手県工業技術センターが連携し、製品開発がスタート。その後、陶器や木工の工房も加わり、岩手の手仕事による介護・福祉食器シリーズ「てまる」として商品化。(2011年度グッドデザイン賞 受賞)

「てまる」の名は、作り手や使い手、高齢者、障がい者、子ども、家族…沢山の人の「手」が「輪(まる)」となってつながり、「人と人」「人と社会」の結びになって欲しいという願いから生まれました。

## てまる





繭玉と漆を組み合わせた、これまでにないジュエリーが生まれました。繭玉は繊維素材であるため漆が深く浸透しますが、焼付け塗装を施すことで、丈夫さとカブレにくさを両立しています。

使用している漆は、岩手県二戸市浄法寺町で採取されている国産ブランド漆“浄法寺漆(じょうぼうじうるし)”です。漆や金箔は、世界遺産に認定(平成23年6月)された中尊寺金色堂に代表される岩手県平泉の黄金文化にも通じる、岩手のアイデンティティともいえる素材です。

この新しい複合素材の特徴を生かし、さまざまな新作の開発に取り組んでいます。

## 繭と漆による 岩手オリジナルジュエリー





「JOEWELL」は世界中の理容師・美容師に愛されている  
鋏ブランドで、1917年東京で創業した株式会社東光舎が  
展開している商品シリーズです。

基礎研究から新製品開発、製造までが岩手工場で一貫し  
て行われ、「MADE IN IWATE シザーズ」として国内外に  
出荷されています。「滑るような切れ味」など、手仕事による  
繊細な研削技術によって生まれる商品は、国内外で高い評価  
を得ています。

さらに、2007年より医療用鋼製小物も加わり、産学官で  
共同開発した「ヘキサゴン鑷子(せっし)シリーズ」は2011  
年度グッドデザイン賞を受賞しました。

## JOEWELL

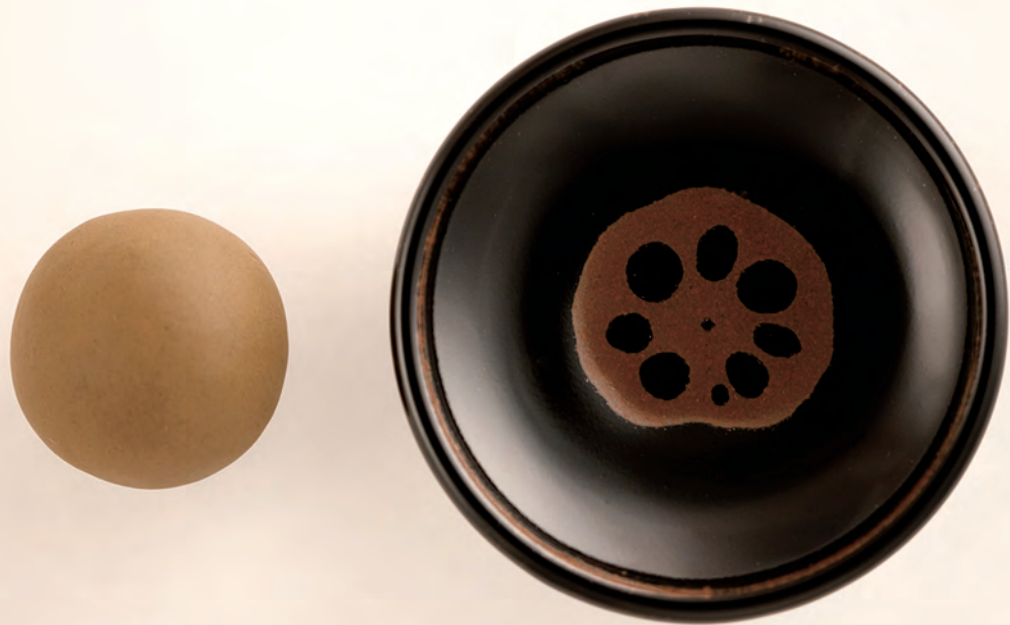
理美容・医療用鋼製小物ブランド



# IBARAKI

茨城県

茨城県工業技術センター 産業指導所 [工芸技術部門]  
〒309-1611 茨城県笠間市笠間2346-3  
Tel: 0296-72-0316 Fax: 0296-72-3027  
ホームページアドレス <http://www.kougise.pref.ibaraki.jp/yougyou/>  
e-mail: [yougyou2@kougise.pref.ibaraki.jp](mailto:yougyou2@kougise.pref.ibaraki.jp)



江戸時代から続く「笠間焼」は、関東随一の歴史と伝統に新たな技法が加わり、いまに生きる。

鉄分を多く含んだ赤褐色の笠間粘土は、可塑性に優れているため、ろくろによる成形技術が発達した。昔は水がめ、茶壺、すり鉢、湯たんぼ、徳利などの日用雑器が作られていたが、その後、笠間粘土の風合いを生かした花器、茶器など、芸術性の高い作品もつくられるようになった。

熟練職人の伝統が受け継がれる一方で、現代的センスの新進陶芸家も多く、新旧窯元が競い合うように、日用品から装飾品・オブジェまで、優れた作品を生みだしている。

なお、笠間焼は平成4年に国の伝統的工芸品に指定されている。

## 笠間焼



# SAITAMA

埼玉県

埼玉県産業技術総合センター [ものづくり開発支援担当]  
〒333-0844 埼玉県川口市上青木3-12-18 SKIPシティ内  
Tel: 048-265-1311 Fax: 048-265-1334  
ホームページアドレス <http://www.saitec.pref.saitama.lg.jp/>  
e-mail: [sangiso@saitec.pref.saitama.jp](mailto:sangiso@saitec.pref.saitama.jp)





桐材の希少価値がますます上がる国産桐産地のなかでも秋田県雄勝地方に育った桐は、国内最上級の品質と評価されています。一方、江戸時代より約300年の歴史をもつ桐工芸の街、埼玉県春日部では 伝統的な桐加工の技術が、腕の確かな工匠たちによって脈々と受け継がれています。

雄勝と春日部。桐に関わる2つの地が手を結び、現代の暮らしにあった、まったく新しい桐の家具と雑貨を世に送り出すことになりました。日本独特の気候風土の中で、古来より大切な品々の保存を任されてきた桐の特性をもっと自由に、もっと楽しく、もっと身近に活かしていきたい。メイド・イン・ジャパンだからこそ実現できる品質とデザインで21世紀の日本に「桐のある暮らし」を提案すると共に世界に向けても、日本の桐工芸の素晴らしさを広く発信していきます。

## 桐と暮らす

「雄勝の林業」×「春日部の工芸技術」  
農商工連携事業





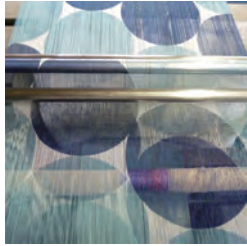
埼玉県の秩父地域は江戸時代から続く絹織物の産地です。明治時代に解し捺染の技術が開発され、大正時代、昭和初期に大流行した色彩豊かなモダンデザインの着物地が「秩父銘仙」です。2010年代、産地は縮小しましたが若い後継者により新しい「秩父銘仙」が作られるようになり、国の伝統工芸品に申請するなど新しい動きが活発になっています。

また「秩父銘仙」の原点でもある、玉繭から直接に糸を取って織り込む技法である「太織」も後継者が育ち、現代の感覚に適應した手織りの商品も作られるようになりました。

産地は大量生産から中規模、少量生産になり、個性を活かす織物工場の生産体制へと変化していますが、ものづくりを志す若者が集まる産地になるためにも様々な取組を支援し、後押しすることが産地組合や行政に求められています。

## 新しい感覚の秩父銘仙

解し捺染、太織  
地域資源活用売れる商品づくり事業



FUKUI  
福井県

福井県工業技術センター[企画支援室 製品化デザイン支援グループ]  
〒910-0102 福井県福井市川合鷺塚町61字北稲田10  
Tel: 0776-55-0664 Fax: 0776-55-0665  
ホームページアドレス <http://www.fklab.fukui.fukui.jp/kougi/>  
e-mail: [kougi@fklab.fukui.fukui.jp](mailto:kougi@fklab.fukui.fukui.jp)



和ろうそくは、植物性のろう材と和紙で作った芯材でできていて、パラフィンや糸芯でできた洋ろうそくと比べ光が強く長時間保ち、燃え方に表情の変化があります。しかし、作製に手間がかかることもあり、高価で主力商品は仏壇用としてしか使われていないのが現状です。また、和ろうそく生産には木型が使われていますが、近年の型製作職人減少による商品開発速度の低下が課題でした。

そこで、3DCAD、3Dプリンタといったコンピュータ造形技術を導入した迅速・低コストのデザイン設計、型製作による商品化を行いました。「ANDON」は、日本の古来の灯りである行灯をモチーフとして作製したインテリアピラーキャンドルで、上面を窪ませた構造により、着火時から和ろうそく特有の「炎の揺らぎ」がろうそく側壁を透かして灯ります。

## ANDON

(株)小大黒屋商店と  
福井県工業技術センターの共同開発



# YAMANASHI

山梨県

山梨県工業技術センター[デザイン技術部]

〒400-0055 山梨県甲府市大津町2094

Tel: 055-243-6111(代) Fax: 055-243-6110

ホームページアドレス <http://www.pref.yamanashi.jp/yitc/>

e-mail: [info@yitc.go.jp](mailto:info@yitc.go.jp)

PERFECT  
LOCK BOLT™



パーフェクトロックボルトは緩まないうえに着脱が容易で複数回使用が出来る画期的なボルトです。

1本のボルトに大小2種類のネジ溝を加工することにより、細目と並目の2つのナットを1本のボルトに装着することが可能になりました。並目ナットは回転速度が速く、細目ナットは遅いので、一度ロックした状態からは決して供回りで緩むことがない構造となっています。従来製品のように摩擦力を利用していないため、ボルトナットともに着脱が簡単に複数回使用が可能であるため、緩み防止と合わせてメンテナンスコストの大幅なカットに貢献します。

この製品は、米国内のビジネスパートナーと組み同国市場において先行販売をしています。現在、日本国内でも製品投入を目指し、ビジネスパートナーを探しています。

## パーフェクトロックボルト





30年に渡るトロンボーン奏者としての経験と、20年に及ぶレーシングマシン用ブレーキパーツなどをはじめとする精密旋盤加工技術に基づいてカスタムメイドされるwillie'sマウスピースは、「明るくニュートラルな音色」「口当たりがすばらしい」「息の通りが良く、さらに心地よい抵抗がある」「アタックが楽、力まずに吹ける」「とにかく吹きやすいので音楽に集中できる」と、発売以来、プロ・アマ問わず、国内外の多くの奏者から高い評価を得ています。

決してマウスピースからプレイヤーに何かを要求することなく、あくまでプレイヤーの身体の一部のようにありたい、共に音楽を奏で合える仲でありたい。すべてのwillie'sマウスピースには、このコンセプトが息づいています。

## Willie's Custom Brass





甲斐国志(文化11年(1814年)に完成)巻之百二十三に「篠(スズ)、富士の北麓ニ叢生 スルヲ、本栖、精進西湖諸村ノ里人苅リテ河内領、郡内領ニ担販ス箕(ミ)、箆籬(イザル)、魚 籃(ビク)ヲ造ル具ナリ」とあり、それ以前に富士山から主材となるスズ竹を採取して、箆籬を作っていたことがうかがえます。

以来、現在に至るまで原料から技法に至るまで作り手に受け継がれてきています。

主材となるスズ竹は、富士山2号目付近に自生しており、しなやかで香りが良いところが特徴とされています。

細かい目で編んだザルは繊細でありながらも、とてもしっかりしており、実用品としてばかりではなく、インテリア性の高い製品としても好評を得ています。

## 富士勝山スズ竹細工







maquimaska™

maquimaska(マキマスカ)は、手巻きタバコをスマートに楽しむために開発された永久フィルターです。2008年に国際特許を取得し、使い捨てないエコフィルターとして多くの愛煙家にご愛用いただいています。

山梨県甲府市は、江戸時代の末期より金銀製品を加工する「飾り業」が盛んな土地です。かつては、オーダーメイドの銀煙管を作る工場がたくさんあったと言われています。

今でこそ諸悪の根源のような扱いを受けているタバコですが、余計なゴミや煙を出さない方法で喫煙を楽しむマキマスカならば、“大人の嗜好品”として、作法も含め、本来のタバコの素晴らしさを実感していただけます。

現在、マキマスカを収納するケースや、小物類を飾るトレイなどを製作してくれるパートナーを探しています。

## maquimaska (マキマスカ)



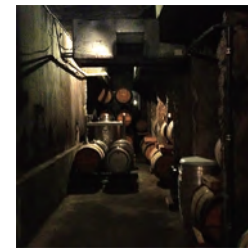


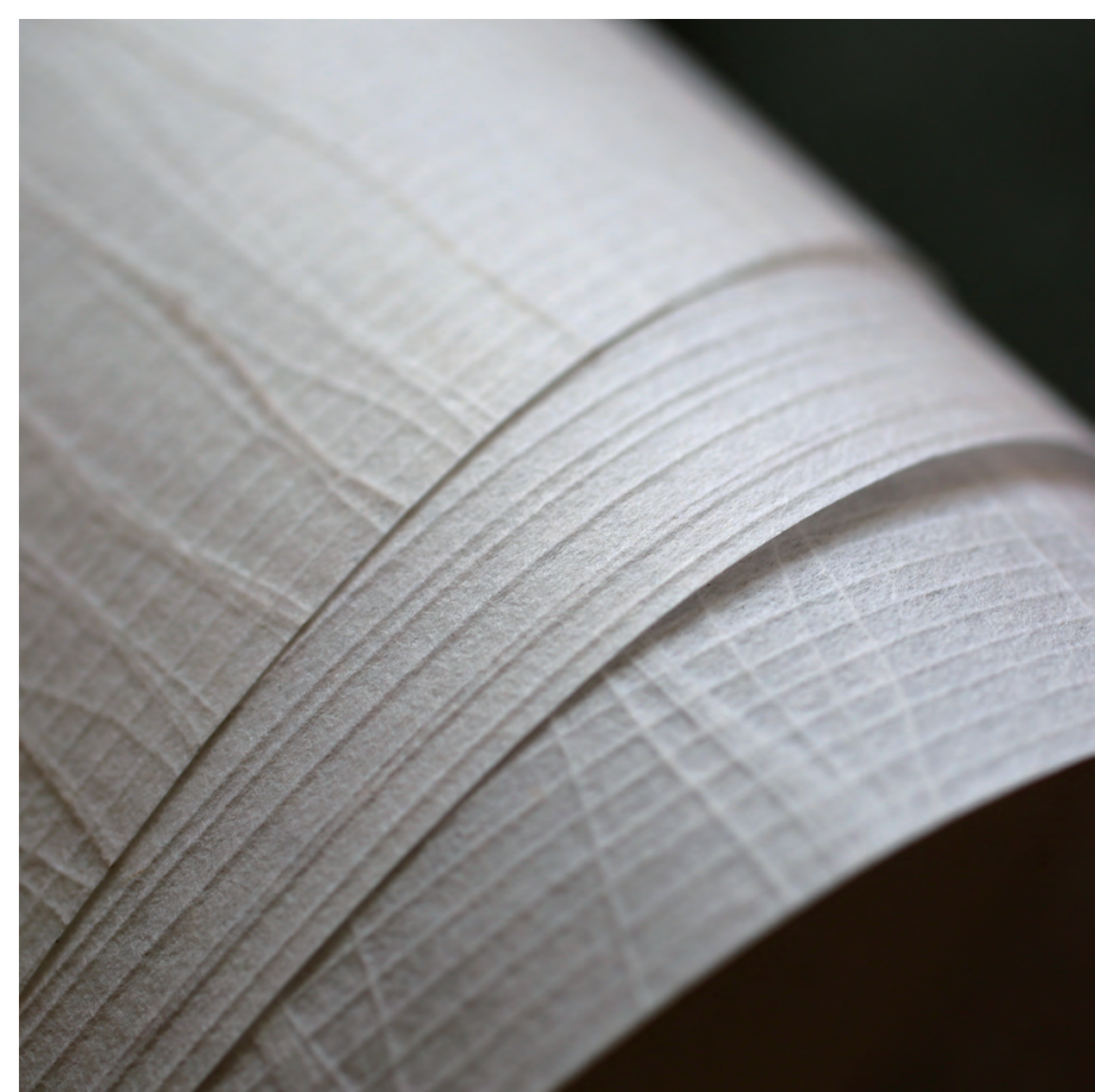
※写真はイメージカットであり、特定の酒造メーカーの商品を推奨するものではありません。

山梨県でワインが造り始められたのは、明治初期です。果樹栽培に恵まれた土地のため、ぶどうの生産地であった山梨県は国の指示により、政策の1つであるぶどう栽培とワイン醸造に従いました。この時はワインではなく、「ブドー酒」と呼ばれていました。

ワインの酒税法がなかった1938年まで、ぶどう農家は余ったぶどうで身近にある一升瓶や2リットルの醤油瓶などに、どぶろくのようにワインを仕込み飲んでいました。ワインは専用のグラスに合った分量を入れて、テイスティングして飲むことが一般的とされています。しかし、昔の農家にはワイングラスはありません。当時は農家の身近にある深めの食器である“湯飲み茶碗”で飲まれていました。現在でも、この一升瓶ワインは県民生活の中に根付いています。

## ブドー酒(一升瓶ワイン)



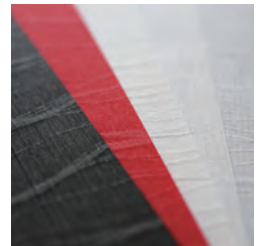


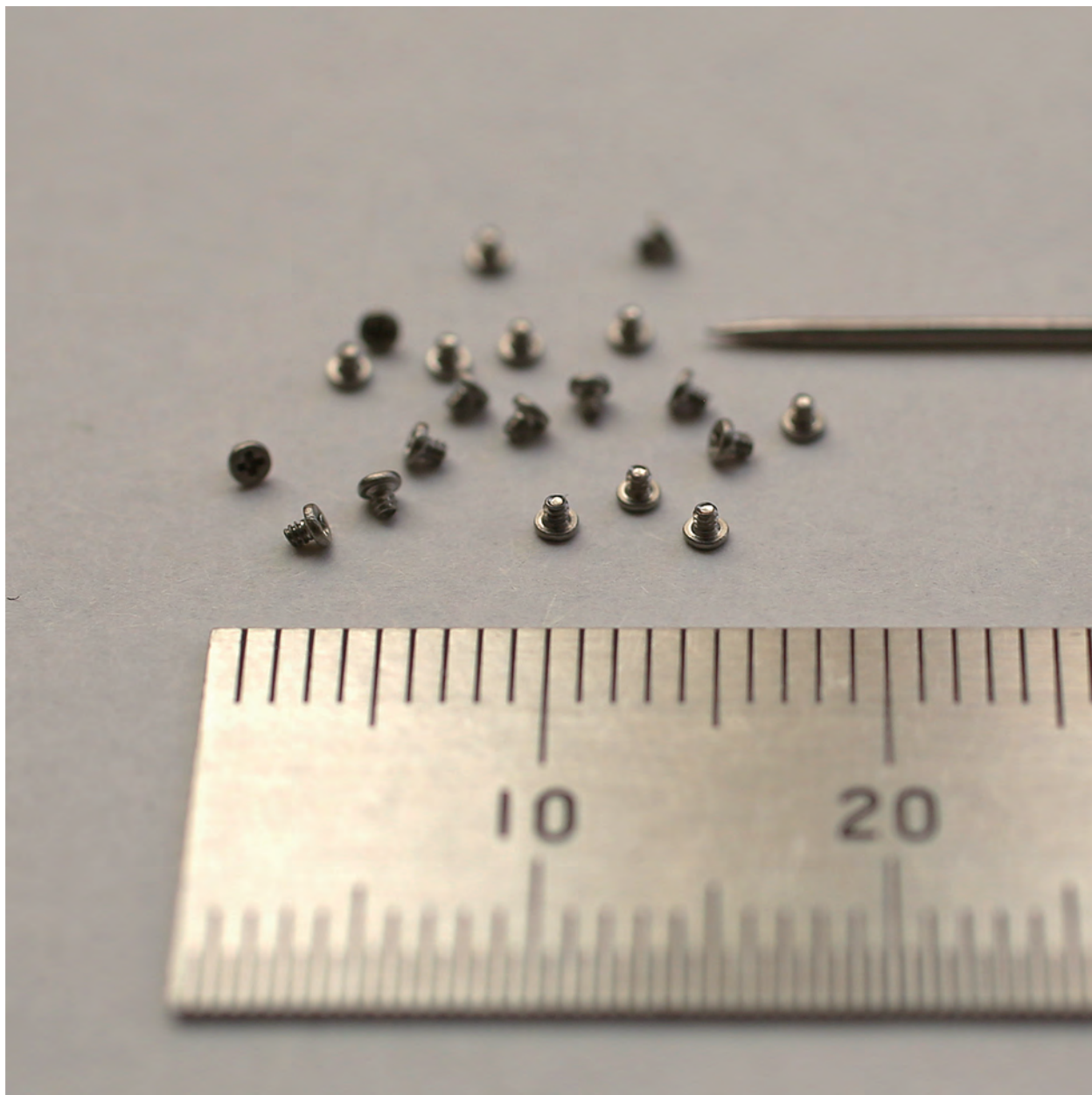
”市川和紙”は天平の昔、1200年前より受け継がれてきた伝統産業です。芦川の清流を使用した和紙は美人の素肌のように美しいことから、肌吉紙と呼ばれてきました。甲斐源氏、武田氏、徳川氏の時代では御用紙として江戸幕府へ納められていました。その後、手漉きから機械化が進み、現在では障子紙全国シェアの約40%を占めており、日本一の生産地、また、本県の主要な地場産業となっております。

”和紙百彩”は、和紙と和紙の間に織物を挟み込む3層圧着製法(特許技術)により、紙の弱さを克服し、糸と和紙を融合させたデザイン性豊かな和紙を実現しました。

現代に受け継がれる伝統技術・文化を大切にしながらしながらも現代生活に合う和紙を創造し、共に協力して用途開発に取り組める企業・クリエイターを探しています。

## 糸入り和紙 和紙百彩



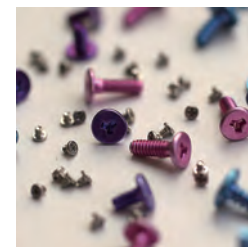


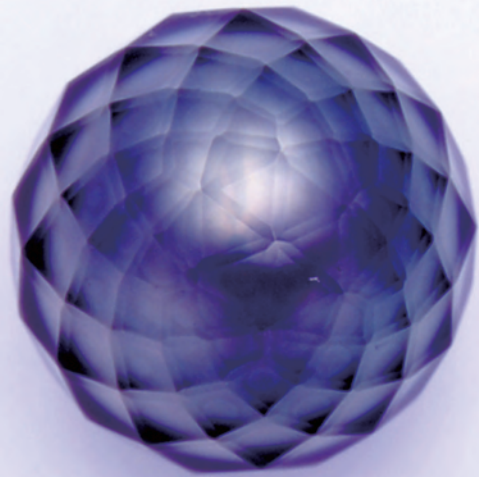
様々な産業分野において、また、私達の日常生活の中で広く用いられるネジ。

そんなネジの中でも、特殊ネジの加工に非常に高い技術を持ち、特に、国内で生産されるゲーム機や携帯電話に用いられる超小型の特殊精密ネジの分野で高いシェアを持つ企業が山梨にあります。

この企業は、国内のネジ生産分野で注目されている企業で、加工の難しい特殊なネジ素材にも果敢にチャレンジし、今もなお、研究開発に取り組んでいます。

## 世界最小ネジ





真珠は、真珠層と呼ばれる層が核の表面に多層的に重なることで特有の外観を示すのが特徴です。この真珠層は非常に薄いことから、従来は単に表面を磨いただけで用いられ、真珠の加工法としてはそれが最善とされてきました。

これに対して、1000分の1カラット(0.0002グラム)の歩留まりを必要とするダイヤモンドのカット研磨技術を応用して、中の核が透けないように極僅か真珠層をカットしたものが“華真珠”です。

この技術は世界で初めて実用化され、世界唯一の宝石カット技術として国際的にも認知されています。(the Gemmy Awards for 2009)

また、2009年、第3回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞を受賞しています。

## 華真珠





今から約1000年前、御岳昇仙峡の奥地金峰山で水晶の原石が発見されたことが、甲府での水晶細工の起源です。

江戸時代の天保年間、京都より玉造りの職人を迎え、鉄板の上に金剛砂をまいて水晶を磨く方法を考案したのが水晶細工の始まりでした。

そして、安政年間(1850年頃)には水晶や翡翠を使った数珠や帯留め、根付けなどの注文があり、産地として確立していたことは、土屋家(現土屋華章製作所)の蔓注文帳にしっかりとした記録として残っています。

江戸時代から発展した、水晶研磨加工技術の継承と発展により、装身具、仏具、鑑賞用等の製品として、国内の他の地域には見られない産業集積地ならではの工芸品です。

## 甲州水晶貴石細工



# NAGANO

長野県

長野県工業技術総合センター〔環境・情報技術部門〕  
〒399-0006 長野県松本市野溝西1-7-7  
Tel: 0263-25-0790(代) Fax: 0263-26-5350  
ホームページアドレス <http://www.gitc.pref.nagano.lg.jp/index.html>  
e-mail: [kankyojoho@pref.nagano.lg.jp](mailto:kankyojoho@pref.nagano.lg.jp)



信州の東に位置する上田市塩田平は、美味しいお米の産地です。そのお米で日本酒の製造を100年余り営んできた地元の醸造所が、地域の食材を活かした特産品の創生を目指して、従来にない新しい甘酒を開発しました。

長野県で生まれた酒米「美山錦」から造った自社甘酒に、地域産のりんごの他、葡萄のジュースや、赤紫蘇のエキス、杏のピューレなどをブレンドした、すっきりとした味わいの甘酒です。「四季の甘酒」としてシリーズ化しました。

また、夏に冷やして美味しく飲める「ラブレ菌発酵「さわやか甘酒」」を新たに開発するなど、信州真田の里から、地域に根差した新たな食文化が生まれています。



## 「四季の甘酒シリーズ」 「さわやか甘酒」





PREMIUM  
COMPACT  
WOOD  
STOVE

ILLA<sup>TM</sup>  
【イーラ】



環境に対する関心が高まる中、日本国内においても薪ストーブを活用するユーザーが増えています。信州千曲の鍛冶屋4代目社長が薪ストーブを開発し、1990年より発売を開始。自社特許の特殊プレートによる燃焼効率の高さや少煙性、針葉樹・廃材・竹の燃料化も可能など、性能では高い評価を得ながらも、ブランド・デザインにおいては、海外製品に遅れを取っている状況でした。

そこで、県では、海外でのデザイン経験豊富な信州在住デザイナーと連携し、海外製品を超えるデザイン・ブランド化を目指した新しいスタイリッシュなストーブの開発を支援しました。緑豊かな長野の文化が生んだ、世界初の「斜め燃焼式」を備えた薪ストーブ、それが「ILLA(イーラ)」です。

## 斜め燃焼薪ストーブ 「ILLA(イーラ)」 ～信州から世界へ～





匠の技によって生み出される手作りの木曾漆器は、信州の風土と生活の中で生まれ、今日まで受け継がれて来た伝統的工芸品です。木製の漆器は、本来丈夫で熱を伝えにくく、熱いもの、冷たいものをいただくには大変適した器ですが、手入れが大変だという先入観などにより、現在では一般家庭の食卓で使われる機会は激減しています。

日本が誇る漆器を、もっと普段の生活の中で気軽に使ってもらいたいという願いから、ほかの食器と一緒に食洗機で洗える漆器が、開発・商品化されました。食洗機に対応する技術的解決や、デザイン開発・ブランド化のため、県・大学との連携により生まれた商品です。

木曾漆器の新たな用途の広がりを目指す取り組みが続けられています。

## 「キッチン漆・ 食洗機対応シリーズ」 ～伝統木曾漆器の新たな挑戦～



# SHIZUOKA

静岡県

静岡県工業技術研究所[ユニバーサルデザイン科]  
〒421-1298 静岡県静岡市葵区牧ヶ谷2078  
Tel: 054-278-3024 Fax: 054-278-3066  
ホームページアドレス <http://www.iri.pref.shizuoka.jp/>  
e-mail: [d@iri.pref.shizuoka.jp](mailto:d@iri.pref.shizuoka.jp)

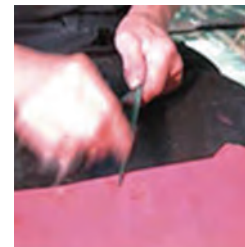


静岡の漆器「駿河漆器」の歴史は古く、今川時代に始まります。その後、三代将軍・徳川家光が浅間神社の造営にあたって諸国から招いた漆工たちが、竣工後も静岡の地に永住しその技法を伝えたことで、駿河漆器の基礎が築かれたと伝えられています。以後静岡の地場産業として発展してきました。駿河漆器は、木地呂塗、螺鈿塗、卵殻塗の他、蒔絵をはじめとする加飾の技法を駆使して、器・箸・盆・文具・小箱・和家具などこれまで日常の暮らしを彩る様々な道具を作り続けています。

2007年、駿河漆器は地域団体商標登録「地域ブランド」の商標権を取得しました。「駿河漆器」のブランド名のもと、私たちはこれからも「不易流行」をコンセプトとして励んでいくつもりです。

## 駿河漆器

静岡県工業協同組合  
樹の椀、駿河漆塗箸、変塗





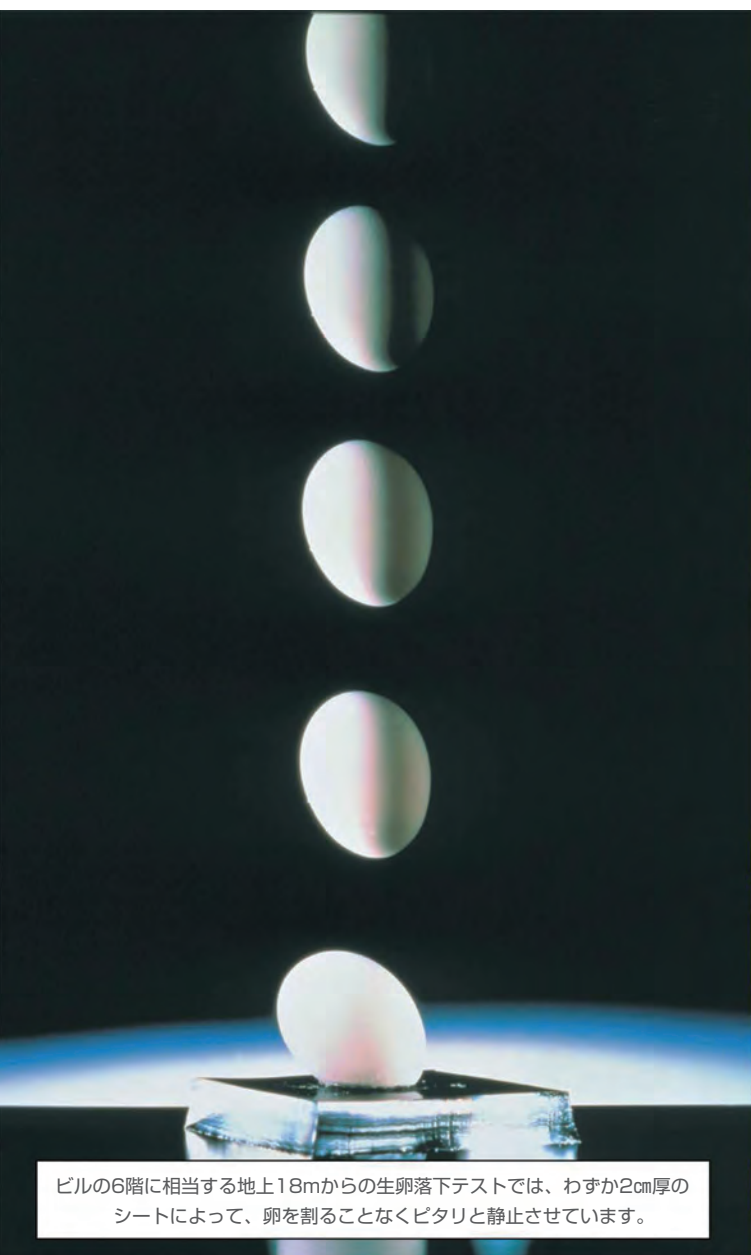
全国にも別府や北陸地方などの竹製品産地がありますが、それらの産地と静岡の竹千筋細工を比べた場合、静岡特産の製品の特徴は、(1)他産地では平ひごを用いるのに対し、丸ひごを使う、(2)ひごの使い方が、他産地ではすべて平ひごを編んで作る技法に対し、静岡ものは、一本一本ひごを組み、千筋にする、(3)竹ひごを輪に曲げるのに独特の曲げの技法を持ち、それを駆使している、(4)輪の部分に継手という独自の技法を用いている、(5)一人の職人が技法を駆使し、仕上げまで九分通り作り上げる…といった点があげられます。

この業界は、手作業の上、一人前になるのには5~10年はかかるといわれ、若い後継者の育成が急務になっています。

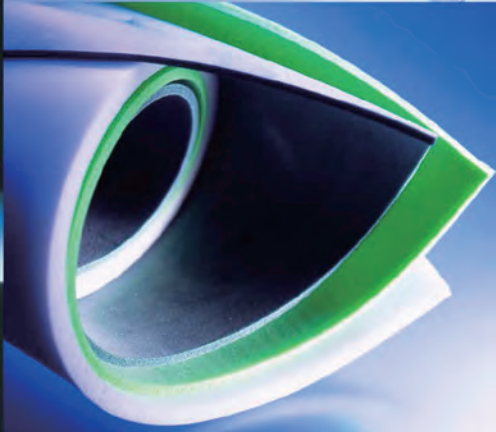
## 駿河竹千筋細工

静岡竹工芸協同組合  
花器、虫籠、行灯、菓子器、茶托





ビルの6階に相当する地上18mからの生卵落下テストでは、わずか2cm厚のシートによって、卵を割ることなくピタリと静止させています。



$\alpha$ GELは高い緩衝性能や防振性能を持つゲル状素材です。耐オゾン性、耐紫外線性、耐薬品性などに優れ、さまざまな場所での使用が可能です。また、圧縮を繰り返しても性能の変化がほとんど見られません。温度依存性が少なく、-40～200℃の幅広い温度条件下でも特性変化が少なく、安定した性能を発揮します。また、他素材との複合や添加材の使用などにより多機能を追求することができます。人と環境に安全な成分でできているため、肌に触れてもアレルギーが起きにくく、燃やしても有毒ガスが発生しません。

タイカのノウハウ蓄積された緩衝・防振データと形状や硬さの調整によって、用途にあった適切な緩衝材や防振材をご提案します。

## $\alpha$ GEL

$\alpha$ GELはシリコンを主原料とするゲル状素材です。  
 $\alpha$ GELおよび卵落下の画像は(株)タイカの登録商標です。





質実剛健から優美な機能曲線へデザインの潮流は、あらゆる分野において留まる事なく変化しています。ところが従来のツキ板では、この流れに対応することは不可能でした。しかし、KIMPARAの曲樹紙は違います。自然環境保護に留意し薄く突いた材に、独創の技法により特殊加工し、布のような柔軟性を持たせることに成功しました。破損、巻きグセがつきにくく、接着性も高い、曲線時代の新素材。活躍のフィールドは、アイデアの数=無限大です。

●主材/日本:ケヤキ、ナラ、カバ、ニレ、セン、タモ、クルミ、トチ、カエデ…など/外国産:バーズアイ・メープル、ウォールナット、ホワイト・オーク、レッド・オーク、ホワイト・アッシュ、チューリップ・ポプラ、ウォールナットなど… 他単板は厚さ0.2mm~2mmまで。

## きよぎし(曲樹師・曲樹紙)

株式会社きんぱら  
銘木ツキ板、天然化粧合板、車パネル





- 椅子座の暮らしに相応しい、立位による祈りの家具  
忙しい暮らしの中で、ふと手を合わせる自分のための時間と空間が必要です。
- 暮らしにとけ込むオープンタイプの祈りのステージ  
宗教、慣習を越えた国際的な祈りのシーンを想定します。  
ステージには大切な人の思い出を載せます。
- チークウッド、エボニーなど素材の特徴を活かしたデザイン  
モダンからクラシックエレガントへ、ビンテージ家具の香りを伝えます。
- 円弧を描く扉と脚部の曲線のコンビネーション  
ステージ背面の円弧と孔雀張りの放射状木目が無限の宇宙をイメージします。かつての日本の住まいにあった仏壇、床の間、飾り棚の機能を包含するMUZEUMです。

## MUZEUM

(ムゼウム・祈りの家具)





# MIE

三重県

三重県工業研究所窯業研究室  
〒510-0805 三重県四日市市東阿倉川788  
TEL 059-331-2381 FAX 059-331-7223  
ホームページアドレス <http://www.mpstpc.pref.mie.lg.jp/kou/>  
e-mail: mie\_cera@pref.mie.jp

三重県工業研究所 窯業研究室 伊賀分室  
〒518-1325 三重県伊賀市丸柱474  
Tel: 0595-44-1019 Fax: 0595-44-1043  
ホームページアドレス <http://www.mpstpc.pref.mie.lg.jp/kou/>  
e-mail: mie\_cera@pref.mie.jp



三重県四日市市周辺で生産されている萬古焼。その主力製品の 하나가土鍋に代表される耐熱陶器です。

昭和30年代に低熱膨張素材であるペタライト鉱石を用いた土鍋が開発され、超耐熱土鍋として商品化されて以来、国内産土鍋の8割のシェアを誇ってきました。現在でも外国製の土鍋が国内市場に押し寄せる中、耐熱陶板、炊飯土鍋、IH機器用土鍋、電子レンジ用土鍋、蒸し鍋、燻製用鍋、焼き芋用鍋、豆腐用土鍋、パン焼き器等、従来型の和風土鍋以外にも様々なアイテムを開発し生産しています。

“耐熱衝撃性が高い陶器素材”は今後も多様な展開が可能です。

## 萬古焼の耐熱陶器





三重県伊賀市周辺で生産されている伊賀焼。茶陶伊賀として名を馳せたその歴史は鎌倉時代に端を発するといわれ、様々な名品が残されています。

その一方で古くから主力製品のひとつとして生産されているのが土鍋、土瓶等の日用雑器です。

土鍋のルーツともいわれる行平鍋(ゆきひらなべ;ふた付き、注ぎ口付きの片手土鍋)をはじめとして、現在も地元伊賀で産出される陶土を用いた手作り土鍋が生産されています。

伝統の技術とデザインを基礎に、陶磁器産業としての新たな展開が期待されています。

## 伊賀焼の土鍋



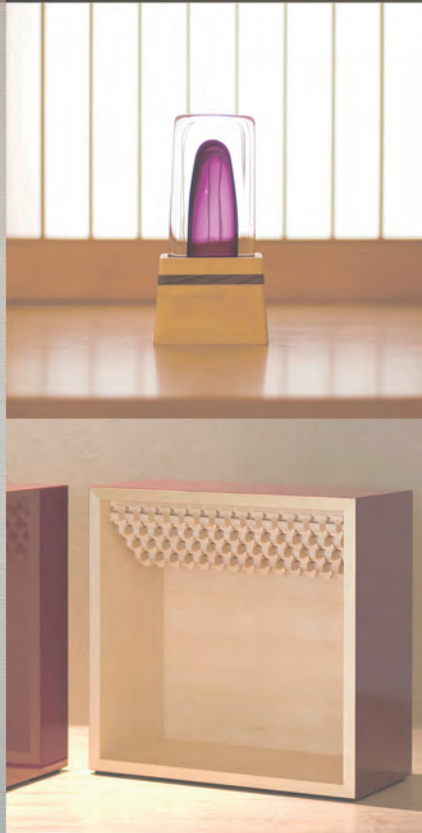
# SHIGA

滋賀県

滋賀県工業技術総合センター【機械電子担当】  
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山232  
Tel: 077-558-1500 Fax: 077-558-1373  
ホームページアドレス <http://www.shiga-irc.go.jp/>  
e-mail: [nogami-masahiko@shiga-irc.go.jp](mailto:nogami-masahiko@shiga-irc.go.jp)

滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場【陶磁器デザイン担当】  
〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野498  
Tel: 0748-82-1155 Fax: 0748-82-1156  
ホームページアドレス <http://www.shiga-irc.go.jp/scri/>  
e-mail: [kawasumi.kazushi@shiga-irc.go.jp](mailto:kawasumi.kazushi@shiga-irc.go.jp)

滋賀県東北部工業技術センター【繊維・高分子担当】  
〒526-0024 滋賀県長浜市三ツ矢元町27-39  
Tel: 0749-62-1492 Fax: 0749-62-1450  
ホームページアドレス <http://www.hik.shiga-irc.go.jp/>  
e-mail: [yamashita.seiji@shiga-irc.go.jp](mailto:yamashita.seiji@shiga-irc.go.jp)



少し昔の頃には、家にはお仏壇や神棚が必ずあり、神仏に手を合わせ、ご先祖様を供養するのは普通のことでした。ところが、生活環境の変化により、お仏壇や神棚を置かない・置けない家庭が増え、それとともに手を合わせる習慣も希薄になってきています。お仏壇の果たしてきた役割とはなんだったのでしょうか。ご本尊やご先祖様を祀るという形式的なことは本質ではなく、心静かに手を合わせ、自分自身や家族を見つめ直す時間を過ごすことで、心をリセットし、新たな活力を得ることこそが本当の役割だったのではないのでしょうか。手を合わせる気持ち、万物への感謝や自分を見つめ直す時間の尊さに気づき始めた日本人。そんな今、仏壇造りに携わる私たちは、伝統技術を活かしながら、現代の生活に溶け込む新しい祈りの空間を提案します。

## ナナプラス





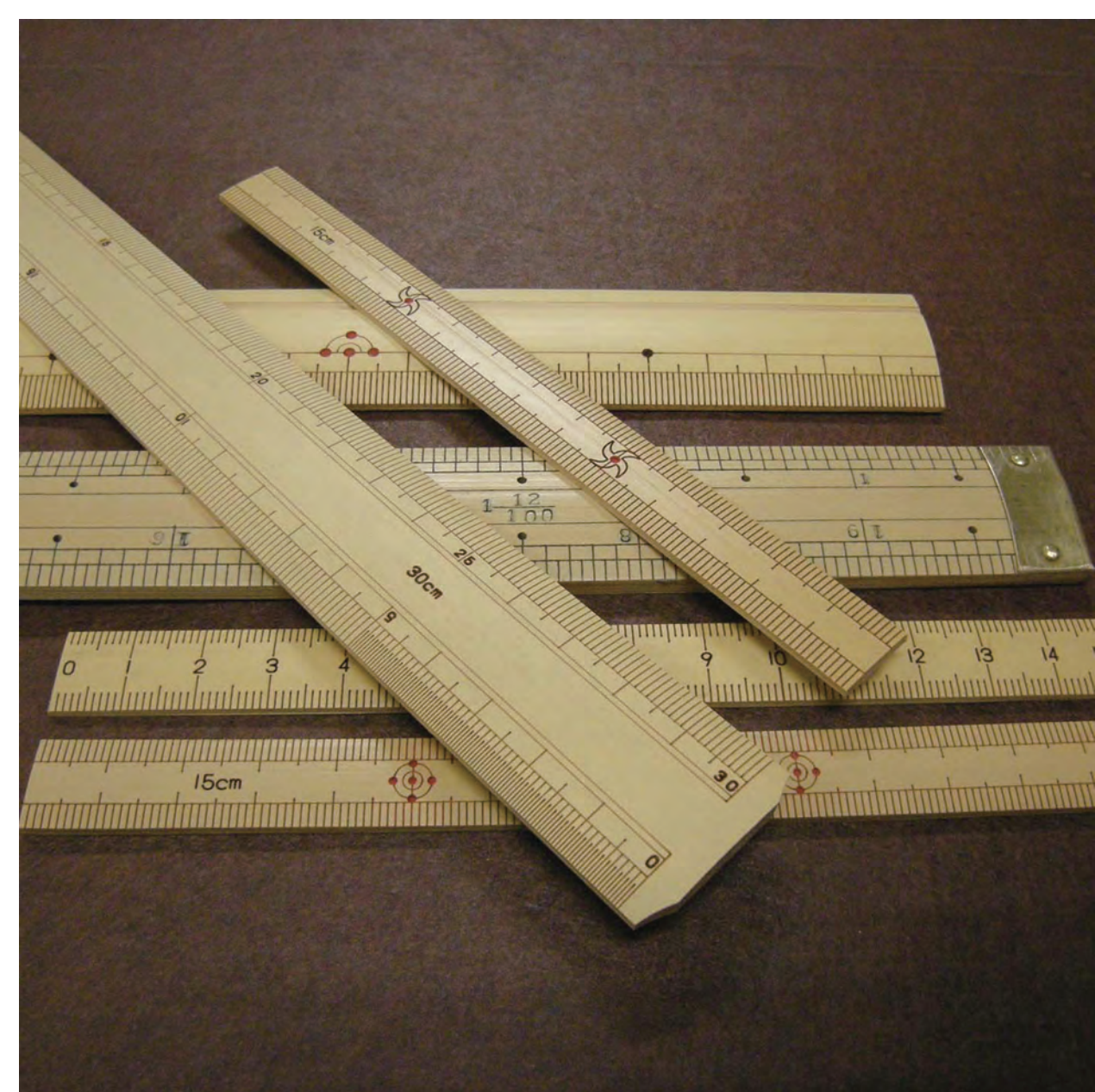
滋賀県は、伊吹、鈴鹿、比良、比叡などの山々に囲まれ、中央に県の面積の約1/6(約670平方キロメートル)を占める日本で一番大きな湖「びわ湖」があります。

滋賀県の繊維産業はこの自然の恵み、文化、歴史、風土の中で育まれてきました。綿、麻、絹の天然素材三産地が形成され、いずれの産地も強撚糸を用い、独特の凹凸がある縮織、シボ加工が特長です。

- 高島の綿織物産地(高島市):ステテコ用素材の「高島ちぢみ」の他、帆布や工業資材も生産
- 湖東の麻織物産地(東近江市、愛荘町周辺):「近江の麻」「近江ちぢみ」の技術を守りつつ、様々な素材にも挑戦
- 長浜の絹織物産地(長浜市):和装用絹織物「浜ちりめん」を生産

## 滋賀県の織物





お婆さんが使っていた鯨尺、ランドセルに差してあった30cmの定規、竹のものさしは懐かしい道具です。かつて竹尺の製造元は日本各地にありました。しかし現在は、滋賀県の甲賀忍者の里にある岡根製作所だけになってしまったようです。樹脂や金属と比べて、竹には軽くて柔らかいため品物を傷つけない、長くても腰が強い、熱膨張が小さいため目盛が狂わないなどの長所があります。岡根社長によると、和裁や伝統工芸の職人たちに竹尺に対する根強い需要があるため、他社が廃業したことにより、近年はむしろ仕事が増えたとのこと。使うほど手になじむ竹のものさしを、皆様のお仕事でも生かされてはいかがでしょうか。  
※信楽焼の成形に、陶土の収縮率が掛けている陶器尺が使われています。

## 竹のものさし 岡根製作所



# OSAKA

大阪府

大阪府産業デザインセンター  
〒540-0029 大阪府大阪市中央区本町橋2-5 マイドームおおさか4階  
Tel: 06-6949-4791 Fax: 06-6949-4792  
ホームページアドレス <http://www.pref.osaka.jp/mono/oidc/index.html>  
e-mail: [info@oidc.jp](mailto:info@oidc.jp)





注染とは、糊で防染を施した布の上から染料を注ぎ込んで染める、伝統的な染色技法です。長いさらし布をジャバラ状に重ね合わせることで、一度に20から30枚を染め上げられるこの技法は、明治時代に大阪で生まれ、本染め浴衣やてぬぐいなどを生み出してきました。

創業46年、国内でゆびおりの規模を誇る大阪・堺の注染工場「ナカニ」から生まれた「にじゆら」は、その名のとおり注染の特徴である「にじみ」や「ゆらぎ」が美しく、色合いも鮮やかなオリジナルのてぬぐいブランドです。注染の技法を守りながらも伝統に固執することなく、アーティストとのコラボレーションを積極的に行うなど、デザインと注染の技術を組み合わせて、新しい生活文化の提案を行っています。

## 堺注染「にじゆら」



# HIROSHIMA

広島県

広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター 生産技術アカデミー  
〒739-0046 広島県東広島市鏡山3丁目13-26  
Tel: 082-420-0537 Fax: 082-420-0539  
ホームページアドレス <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/page/1195454001422/index.html>  
e-mail: [sgagijutsu@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:sgagijutsu@pref.hiroshima.lg.jp)

公益財団法人 広島市産業振興センター[技術振興部 デザイン開発室]  
〒730-0052 広島県東広島市鏡山3丁目13-26  
Tel: 082-242-4170 Fax: 082-245-7199  
ホームページアドレス <http://www.itc.city.hiroshima.jp/design/>  
e-mail: [design@itc.city.hiroshima.jp](mailto:design@itc.city.hiroshima.jp)



日本三景とされる宮島に「宮島細工」があります。宮島細工は、鎌倉時代に神社等の建立のために鎌倉や京都から招かれた宮大工などの職人によって伝わりました。宮島細工には、祈願まで御飯をよそうことまで使われる杓子、棗や菓子鉢などの口クロ細工、角盆などの刳物、大鳥居や紅葉を丸盆などに描く宮島彫りがあり、木地仕上げが多く木目を活かした風合いが特徴です。

毎年秋に意匠技術の向上を目的とした特産品振興大会を実施し、現代の生活者に向けたアイデア溢れる作品が展覧されます。工業技術センターや芸術系大学もサポートし作品の産地ブランド化に取り組んでいます。宮島細工の木工技術を活かした、デザイナーや異分野工芸品産地とのコラボレーションを期待しています。

## 宮島細工





砂鉄や木炭が豊富に産出した中国地方で、古くから発達した「たたら製鉄」。その「たたら」の精神を受け継ぎ、現在国内唯一広島県で製造されているのが「五右衛門風呂」。

「廻し型」という昔ながらの技術を用い、溶かした鉄から厚み3~4mmの浴槽を作るには、精密な鋳型、型に使う砂の調合方法、鉄を溶かす温度や成分など、高度な技術が要求されます。

鋳鉄製の五右衛門風呂は保温性・耐久性に優れ、熱伝導性が高く、湯はとともまろやかで、体の芯から温まります。また全体がリサイクル可能な鉄でとてもエコ。「他の風呂には入れない」という根強いファンも今なお多く、アウトドア用の組立式も加わり、五右衛門風呂は作られ続けています。

## 五右衛門風呂



# EHIME

愛媛県

愛媛県産業技術研究所 [技術開発部]

〒791-1101 愛媛県松山市久米窪田町487-2

Tel: 089-976-7612 Fax: 089-976-7313

ホームページアドレス <http://www.pref.ehime.jp/h30103/sangiken/index.html>

e-mail: [fujita-masahiko@pref.ehime.jp](mailto:fujita-masahiko@pref.ehime.jp)



『伊予の水引』は髪を束ねる元結に代わり、金封、結納へと時代とともに変化を続け、先人たちが培った知恵や技を継承しながら社会情勢や技術革新とともに柔軟に変化している伝統産業です。

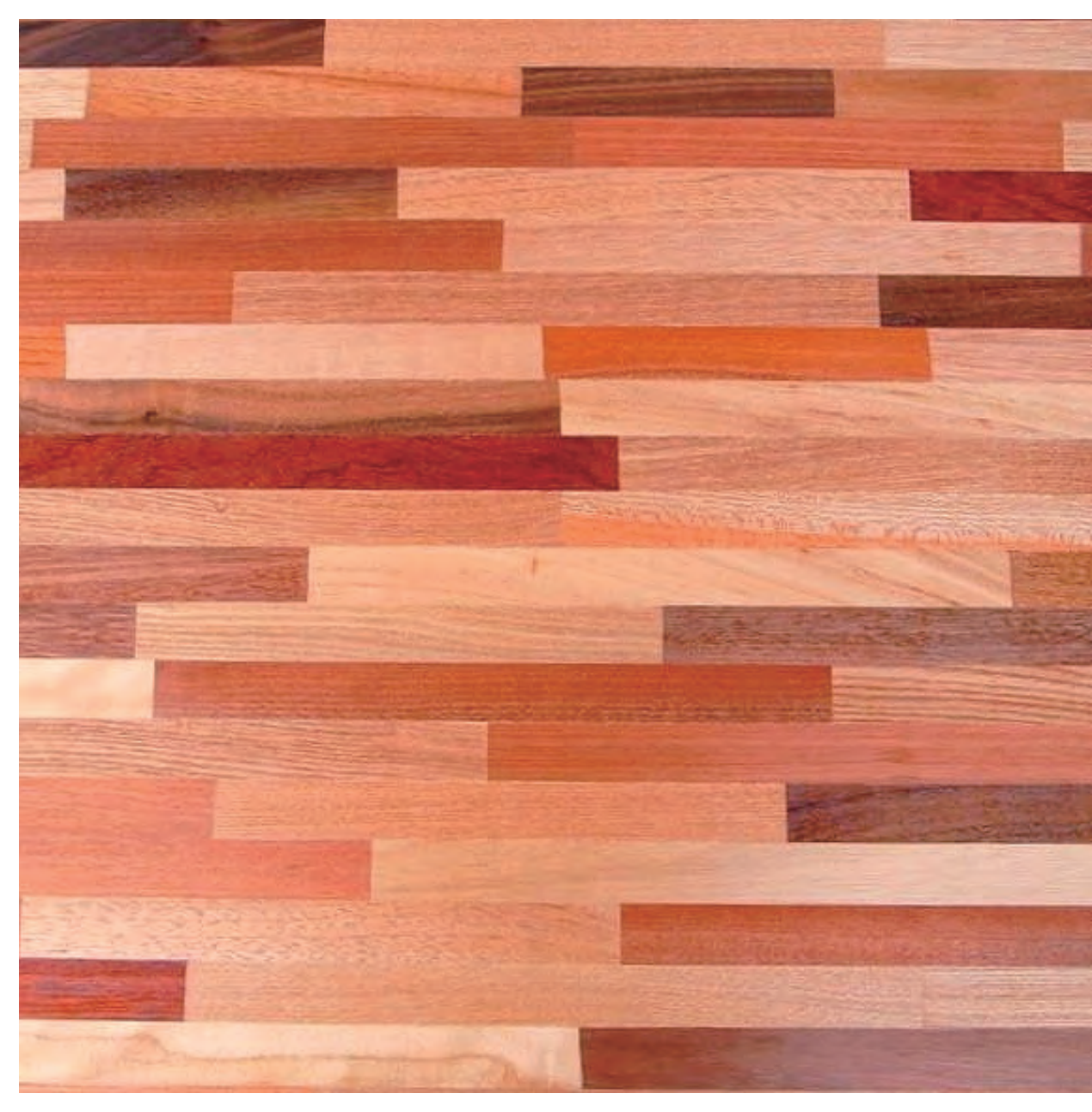
有高扇山堂は創業82年。先代社長は「現代の名工」に認定。「宝船」や「結納」は英国オックスフォード大学ピッツリバース博物館に永久コレクションされるなど、匠の技は海外でも高く評価されていますが、婚礼の簡素化や金封の薄利多売化により、新たな変化の時期を迎えています。

『水引』本来の大切な想いを「包む」、「結ぶ」といった日本独自の文化の原点回帰をテーマに「ギフトのあたらしいカタチ」の商品化に取り組み、2013JIDAデザインミュージアムセレクションに選定されるなど注目されています。

## 伊予の水引

### 時代とともに進化する伝統産業





「世界中の木を見てみたい!触ってみたい」という材木屋の好奇心と「端材を捨てるのがもったいない!」そんなケチ根性から生まれた『モザイクボード』。

北米の広大な森の代表・ブラックウォールナット、中南米の熱帯林からパープルハート、アフリカの灼熱の大地に根ざすブビンガ、北欧の寒風に耐えるヨーロッパビーチ、日本の広葉樹の王様ケヤキ・・・etc。

材木屋の誇大妄想と情熱から、約15～20種類の広葉樹を厳選。一枚のボードのなかに異樹種が揃う事で今まで見たことも無い新たな森が生まれる。愛媛県林業技術センターにて強度試験(圧縮、引張、曲げ、せん断)実施済み。縁あって巡り会って木は、無駄なく大切に使い切る。

さあ、新しい森の探検に出かけよう～!

## 世界の森を旅する モザイクボード



FUKUOKA

福岡県

福岡県工業技術センター[インテリア研究所]

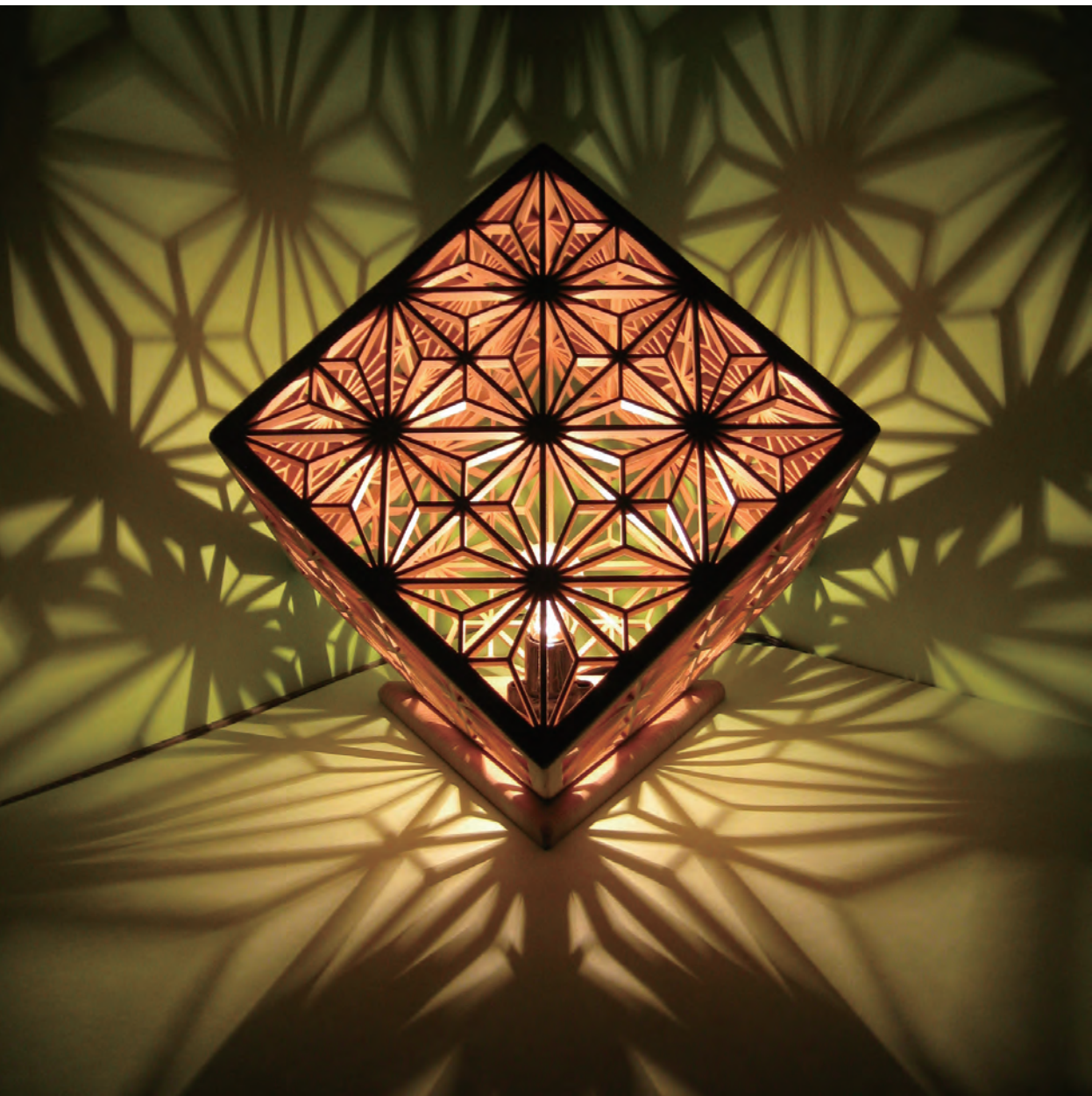
〒831-0031 福岡県大川市上巻405-3

Tel: 0944-86-3259 Fax: 0944-86-4744

ホームページアドレス <http://www.fitc.pref.fukuoka.jp/>

e-mail: [joho@fitc.pref.fukuoka.jp](mailto:joho@fitc.pref.fukuoka.jp)





組子は釘を使わずに細やかな手作業の繰り返しにより木と木を組み付けて作ります。約三百年の歴史を誇る大川組子は二百以上もの伝統的組方があり、職人による独自の図柄が生み出されながら、より繊細なものとして今日に伝承されています。職人が手作りの鉋や道具を使い、麻の葉、八重桜など花の名をもつ意匠を木曽杉の白や秋田杉の赤、神代杉の紫紺の色を活かしながら編んで表現する作品は匠の技の結晶です。

古くから、建具や欄間として重宝され、福岡県の特定工芸品に指定されています。

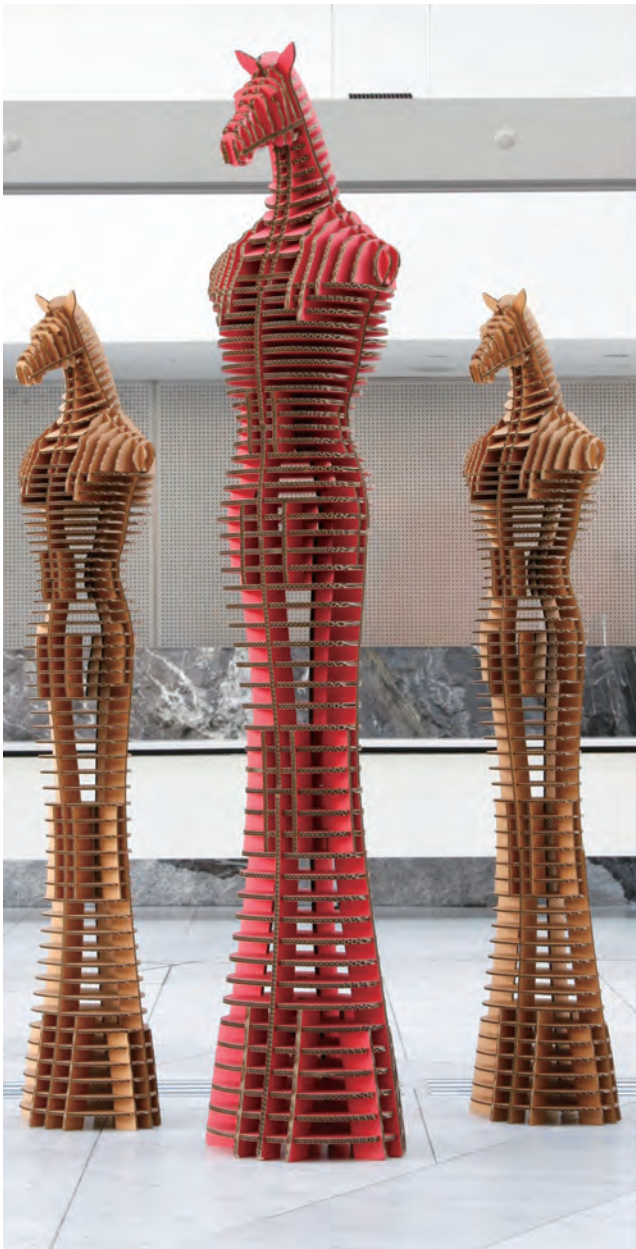
近年では、洋風にもマッチする建具装飾や組子が作る影の美しさに注目した照明をはじめとしたインテリア小物など建具装飾以外にも様々な作品を発表しています。

## 大川組子



OITA  
大分県

大分県産業科学技術センター[製品開発支援担当]  
〒870-1117 大分県大分市高江西1-4361-10  
Tel: 097-596-7100 Fax: 097-596-7110  
ホームページアドレス <http://www.oita-ri.go.jp/>  
e-mail: [info@oita-ri.go.jp](mailto:info@oita-ri.go.jp)



株式会社アキ工作社(大分県国東市)が開発したd-torso systemは、対象物を3軸(x方向、y方向、z方向)によって切断、解体し、これを再構築する立体造形システムです。

システムの特徴は形態作成の自由度が高いことです。形態の設計から生産まで、すべてコンピュータ上で処理されるため、デザイン、試作、商品化にいたる工程を短期間ですすめていくことができます。もう一つの特徴は、素材選択の自由度が高いことです。レーザーで切断可能な多様な素材(紙、木、アクリル、金属等々)を用いることが可能です。これらの特徴を活かして、国内外のディスプレイ、インテリア、クラフト、パッケージの分野を中心に幅広く立体商品の開発を行っています。

## d-torso system





筒状炎



渦流炎

株式会社イーコンセプト(大分県大分市)が特許を有する、筒状炎技術を利用したろうそくです。筒状炎は、炎の中に安定した量の空気を入れ、炎の中に空気の柱をつくり、筒状の膜で燃える技術です。この技術を利用した製品は、風が吹いても消えにくく、煙の発生が少なく、光への変換効率を向上させ、同じ明るさで比べるとろうの消費が半分で済むなど、優れた特徴を有しています。

国宝臼杵石仏や宮島の巖島大願寺などで、風で消えない線香の種火として使われています。また本企業は筒状炎技術を発展させた渦流炎技術も有しています。炎の周りの空気を旋回させ、炎を空冷し炎の上昇速度を抑えることにより、炎の高さを高くしても煙が出ない技術です。炎を楽しむ照明やアロマディフューザーとして使われています。

## 筒状炎ろうそく製品





「クマガエこんにゃく」ブランド

株式会社クマガエ(大分県日田市)は、こんにゃくの原料であるグルコマンナン活用のスペシャリストとしての称号「マンナンマスター」を名乗り、従来のこんにゃくとはイメージの大きく異なる製品を開発しています。

従来イメージの延長としての「クマガエこんにゃく」ブランドと、スイーツ製品専用の「ラングダンジュ(天使の舌)」ブランドに分けて市場展開を図っています。

こんにゃく嫌いの人でもおいしく食べられる、健康と美容を守るための創作こんにゃくとして、ホルモンに食感を似せたこんにゃく「ほるこん」を発売したところ、全国ネットのテレビ情報番組や新聞全国紙等で紹介され、大手流通販売企業などと取引が成立いたしました。

## マンナンマスターの こんにゃく製品



「ラングダンジュ(天使の舌)」ブランド

MIYAZAKI

宮崎県

宮崎県工業技術センター

〒880-0303 宮崎県宮崎市佐土原町東上那珂16500-2

Tel: 0985-74-4311 Fax: 0985-74-4488

ホームページアドレス <http://www.iri.pref.miyazaki.jp/>

e-mail: [info@iri.pref.miyazaki.jp](mailto:info@iri.pref.miyazaki.jp)



2001グッドデザイン賞を受賞した「エコレンガ」は、国産環境型レンガとして国土交通省NETIS登録取得やグリーン購入法商品選定など、ダイオキシンの無公害化した産業廃棄物焼却灰等を組成材に活用した循環型リサイクルシステムとしてのデザイン評価が高まっています。

また、平成22年に大噴火した新燃岳の大量の降灰を45%利用したレンガは災害復興の一躍を担うCSRレンガとして一般販売を行ったり、環境景観素材としての新たなデザイン価値やレンガ市場を切り拓くことに貢献しています。レンガ本体の外観・寸法を変えることなく、その本質的な技術とデザインが社会的問題解決に貢献した地域産業の良い事例として、日本国内はもちろん、世界各地の窯業関連産業との技術連携の広がりにも期待が持たれています。

## エコレンガ





みやざきの鉄肥杉の肌触りの良い素材特性やタモ材などの木材本来の素材感を活かした木製螺旋階段は、住宅の個性化や住空間の魅力づくりに貢献しています。

また、国内の著名ホテルや九州国立博物館等の複雑な曲面や螺旋形状部材製作等の実績も豊富で、木工用CNCルーター加工技術を駆使した製品開発は、木材工芸分野を超えて、航空機の内装部材加工などの新たな技術展開をも可能としています。

近年、日南鉄肥杉デザイン会「obisugi design」における鉄肥杉を活用した新商品開発やデザイン試作など、木工関連地域産業の技術の要として商品開発力向上にも貢献しています。

## 木製螺旋階段と 木工技術





# こらぼん

Booklet to accelerate collaboration

地域と地域、産業と産業をつなぎ、モノづくりのための刺激を生み出す実験的冊子

## VOL.2

# こらぼん

Booklet to accelerate collaboration

### 企画

榑谷幹雄(三重県工業研究所)  
串田賢一(山梨県工業技術センター)

### 編集

榑谷幹雄(三重県工業研究所) 分科会長、東海・北陸ブロック幹事  
小堀 誠(神奈川県産業技術センター) 副分科会長、広域関東圏ブロック幹事  
及川雅稔(北海道総合研究機構) 北海道・東北ブロック幹事  
岡本匡史(京都産業技術研究所) 近畿ブロック幹事  
橋本晃司(広島県立総合研究所) 中国・四国ブロック幹事  
川口比呂志(佐賀県工業技術センター) 九州・沖縄ブロック幹事  
宮田なつき(産業技術総合研究所)  
串田賢一(山梨県工業技術センター)

### デザイン

串田賢一(山梨県工業技術センター)

### 編集協力

掲載道府県のご担当者各位

### Special Thanks

Tii-tin & Mii-tin(山梨県)

発行日: 平成25年10月25日

Copyright2013-2014 Life science sectional meeting

Design subcommittee

All Right Reserved.

本誌掲載写真・内容の無断転載・複写を禁じます。